

# 東京東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会  
東京支部

東京東雲会会報 第4号  
令和3年7月発行

編集・発行：東京東雲会  
題字：奥村 浩治(山脈22回)



令和元年 東京東雲会総会&懇親会 集合写真

## 総会・懇親会の10月開催を目指して

東京東雲会会長 林田 英樹(山脈12回)

コロナ禍の一刻も早い終息を願いながら過ごす日々が続きますが、皆さまお元気にお過ごしでしょうか。

毎年7月第1週の土曜日に開催している東京東雲会の今年の総会・懇親会をどうすべきか検討してきましたが、7月初めに安心して集まっていただけの状況になることは難しいとの判断から、とりあえず延期することといたしましたのでご理解いただきたいと思ひます。

昨年開催できなかったのが2年連続の中止は何とか避けたいとの思いから、現時点で中止を決定するのではなく、特例的に今年の秋に延期して、可能な状況であれば開催したいと考えております。変更後の日程としては、10月16日(土)の昼として、例年通り霞が関法曹会館を押さえております。開催が決定しましたら改めてお知らせしますので、是非ともご出席いただき、久しぶりの旧交を温めていただきますようお願い申し上げます。



母校の鳥取東高は、来年の6月23日に創立100周年記念日を迎えます。来年の8月末か9月上旬に記念式典や行事が行われる予定と聞いておりますが、詳細は例年6月に発行される東雲会本部の会報「しのめ」などでお知らせがあるものと思ひます。東京東雲会でも、お世話になった母校の更なる発展のためにできるだけ協力をしたいと思ひますので、皆さまのお力添えをお願い申し上げます。

この会報は、会の活動や母校の情報をお知らせするとともに、会員の皆様の交流の場として活用していただくことを主たる目的として創刊し4号目となりました。同じ時期に立ち上げたホームページの内容も充実してきたのではないかとと思ひます。更なる改善に向けて努力してまいりますので、皆様のご意見や投稿を寄せていただきますようお願いいたします。

未曾有の困難を乗り越え、平穏な日常を取り戻した喜びを肴に、母校の校旗の下に集まって歓談できる日が一日も早く到来することを願って、ご挨拶いたします。



# 東京東雲会 コロナ禍近況報告



昨年から続くコロナ禍、皆さん何を思い、どんな過ごし方をしていますか？

長年「東京東雲会」のお世話をさせていただきましたが、新型コロナウイルスの影響でその運営が大きく変わってしまっています。本来我々の同窓会は、いわゆる「三密」を楽しむ会であり、総会のお開きの後には親しい同級生、先輩・後輩と二次会、三次会と続く……これが60年以上続いてきました。



それでも林田会長、奥田幹事長はじめ多くの方々の努力で今までなかったすばらしい会報が発行され楽しい「東京東雲会」が維持されています。コロナ禍が一日も早く収束して元に戻ることを祈念して“乾杯”。

(東京東雲会名誉会長 山脈5回 鈴木 誠)



コロナ禍で緊急事態宣言が発令された頃から、仕事が時短になり、朝の時間的余裕ができ、ほぼ毎朝1時間5キロ、自宅近辺をランニングウエアに着替えて音楽を聴きながらゆるゆるラン(ほぼウォーキング)をしています。コロナ禍以降続けているので、季節によって変わる木々や桜やバラやつつじやアジサイなど丁度1年を通して変化を楽しめました。

去年、小池都知事が「桜は来年も咲きます！お花見は自粛してください」とおっしゃっていましたが、今年も見事に無事桜は咲きましたね(笑)

(山脈34回 荻原 聖子)

山脈18回の関東地区の集まり「らっきょうの会」一昨年は台風19号で中止、昨年はコロナ禍で中止。今年は？帰省もできずスティホームで近くに住んでいる三歳の孫と遊んで



る日々です。そこで一句『孫とジジ 知力体力互角かな』コロナ禍で新しい生き方を模索しながらストレスは溜めず、お金は貯めるよう頑張っております。(山脈18回 本城 一隆)



「ピアノバーで弾けたら格好え～だろうな～♪」との思いでピアノを始めたのが、16年前のゴールデン・ウィークでした。少々レッスンに通ったものの、その後は練習もせずに時間ばかりが経ちました。が、長いブランク後、練習を再開しました。バイエルさえ卒業していませんが、「いつかピアノバーで♪」を目指しています。“ボケ防止”との指摘もありますが!?

(山脈23回 細井 亮)

コロナ禍の中、私は東高卒業60年を思い、写真の整理を始めました。当時を思い返しながら、学生生活の思い出と陸上部での思い出を2冊のアルバムにまとめたのですが、やはり陸上部での思い出の方が多かったように思われます。東高に入学し、陸上部に入部したのですが、1年時は長距離選手ではないにもかかわらず、米子～鳥取間の駅伝を走りました。2年時には、県の新人戦で男女共に団体優勝をしました。これは東高としては初めての快挙だったと記憶しています。また、高校総体(インターハイ)予選の中国大会では、岡山県の設備の整った素晴らしい陸上競技場で走ったことが思い出されます。当時を思い出しながら懐かしい写真を見ていると時間の経つのを忘れ、アルバム整理がはかどりませんでした。



今年度の「東京東雲会」の総会もコロナが一段落して、皆様と昔話に花が咲かせられるよう楽しみにしています。

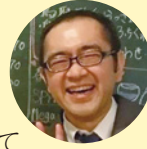
(山脈12回 雨河 行穂)



季節のイベントや季節の風をゆっくり感じることもなく、一年が過ぎてしまいました。この先あまり長くない一年を返して～！てな思いです。生活は変わらなく時短で仕事を続けています。年に数回会ってる仲よし東高同期会(アポロ会)の昭和のおやしギャグを聞きながら、お酒を呑み美味しい肴が食べられないことがとても残念。そんな事で、切り替えできたり元気を貰っていたんだと感じます。そして何より、帰省できないことです。鳥取の海、山の木々、新鮮な魚の匂いが嗅ぎたい!!

(山脈22回 鶴賀 一美)

現在、新型コロナの影響もあって、会社では在宅勤務が奨励され、通勤するのは週3日となっています。御多分に漏れず、自宅で働く運動量が減って、少し体重が増えてきた気もします。運動せねば。外食と会合がめっきり減り、代わりに、妻から週末の昼食は作るように仰せつかりました。息子「おかあちゃん、お昼なに？」妻「おとうちゃんに聞いて」。見事なものです。妻から与えられた台湾料理のレシピ本を参考に作っていますが、なかなかの味。妻「これ、美味しいわ」。次、何作ろう。(山脈45回 須崎 浩史)



私たちが鳥取東高で横川先生の薫陶を受けて学んだ物理学が、近ごろでは「古典物理学」と呼ばれ、若者は「量子力学=現代物理学」を学んでるそう。先日読んだ衝撃的な記事でした。私たちは古典人間になってしまった?! そういえば、スパコンで何百年もかかる問題を、量子コンピュータは3分で解いてしまう現実。チョットでも肌身に感じたい…古典人間になりたくない。そんな中、「小学校高学年から」(for children aged 8 and above)と励ましてくれる量子力学超入門絵本を見つけた。新コロナは、まだまだ続くと覚悟をしなければならず、十分過ぎるほど時間があるので、ゆっくり、ゆったり、のんびり、気楽に、学び?始めた。さてさて、今後どうなりますやら…。(山脈7回 中島 一郎)



“私のコロナ生活”  
妻を亡くし一人暮らし。朝起きると自分で作ったチェックリストに従い、検温、血圧測定、倦怠感?、呼吸器は?、嗅覚味覚は? 終わって朝食の支度、出来上がると朝のストレッチそして朝食。午後はほぼ毎日の鎌倉に通じるハイキングコースの散策、お陰でコロナで足腰鍛えられました。夕方の1人飲みも時短で早めの17時から、ワインの量が増えました。昨年3月からこんな規則正しい日々を、早く好きな旅行やお墓参りに帰りたいものです。(山脈12回 高木 盾彦)



コロナ太り解消のため自転車で遠出しています。週末はもっぱら都内世田谷の自宅から、江の島や小田原を目指して一人でのんびりペダルを踏む日々。心地よい風や海や山の匂いを感じつつ小旅行を堪能。でもこれは往路だけのこと。疲労困憊で迎える復路は、ただただ辛い道のり。最近では自転車を分解してロマンスカーに乗って帰る始末。あれ? 痩せないな～。(山脈41回 平井 裕造)



コロナ禍に想うこと…。今年は母の三回忌。コロナのため帰省もできず、法事や墓参りもできない。今度、帰省した際には、お参りはもちろん、しっかりお墓の掃除もしようと思う。コロナは私に母や先祖のことを、しっかりと考える時間を与えてくれたように思われる。(山脈23回 真先 薫)



コロナ収束なき中、リモートワーク継続中で週1回ペースでの出勤です。近く訪れる、“毎日が日曜日”も見据え、運動不足解消目的の朝/夕散歩(約1万歩)、プランター野菜栽培、既に退職した会社の先輩方との田舎生活(野菜作り/タケノコ掘り他)&ゴルフ他、歳相応にエンジョイしております。早期のコロナ収束、自由に帰郷(旅行)もできる普段の日常に戻ることを願うばかりです。(山脈27回 木下 修作)



「芸能におけるコロナの影響について」  
私は「中尾一貴」という芸名で、音楽・テレビ・舞台等、芸能活動をしています。今のメインは声優ですが、ご存じの通りライブやイベント、舞台等全滅です。声優のお仕事も形態が変わり、ほぼ「抜き録り」という、個人収録となりました。非常にやりにくいです。ただ、嘆いているだけでは前に進まないで、自宅で海外ドラマやアニメ、映画等鑑賞し、研鑽が積める時間が持てたと考え方を変えました。窮屈な世の中ですが、皆様もご自愛ください。(山脈45回 中尾 和貴)



コロナ禍のため、突然始めざるを得なかったリモートワークやウェブ会議にもやっと慣れてきました。最近では近くの公園を梯子してバードウォッチングを楽しんでいます。(山脈14回 大久保 慶一)



「好況良し!不況良し!」この名言が身に沁みる今日この頃です。昨今、頻りに話題にあがりがちな飲食店を経営していますが、この一年は業態変更など新しい事に挑戦する機会が多く、私にとって重要で必要な期間であったと日ごとに感謝を覚えております。(山脈45回 片山 香織)



## 鳥取東高クイズ

東高はいよいよ来年2022年で創立100周年。故郷や東高のことを思い出してみましよう!

- Q1: 鳥取東高の創立記念日は次のどれか。 1.4月5日 2.6月23日 3.9月12日  
 Q2: 三つのペンが描かれている校章は、1948年学制改革により鳥取二中が鳥取第二高校となり、翌年他の2つの高校を統合し、鳥取第二高とあわせた3校を表しているとされていますが、他の2校とは。  
 Q3: 鳥取東高 書道部は全国的に有名だが、書道パフォーマンス(書道甲子園)で優勝したことがある。 ○か×か?  
 Q4: 鳥取県の中学で最初にプールを持ったのは、鳥取二中である。 ○か×か?  
 Q5: 鳥取東高が臨海教育でお世話になった、東浜海岸にある実際の地名は? 1.陸上 2.水泳 3.体操  
 Q6: 鳥取県にある実際の地名です。読み方は? 1.清水 2.車尾  
 Q7: 湖山池は日本一大きな池である。 ○か×か?

クイズの答えは8ページに▶

# 古代東高史

倉恒 貞夫(山脈3回)

## 第3回 思い出の先生方

私は昭和24年(1949)4月、東高開校(開校式は4月12日、工業の体育館で行われた)のとき、1年生として入学し、昭和27年(1952)3月に卒業しましたから、3年間東高に在学した卒業生としては一番古い卒業生ということになり、ひそかに何となく、勝手に威張って(?)います。

4回生と我々3回生とは大変変わった関係にありました。というのは、我々3回生は、旧制中学、女学校の最下級生として、中学校3年間ずっと下級生なしにきましたし、4回生は、新制中学校の最上級生として先輩なしに3年間過ごして来て、昭和25年東高に入学して初めて上級生の我々がいるということになったからです。

前にも述べましたが、高等学校統廃合による学区制でこのとき東高には、東中、南中、岩美郡県外からの受験生が新入生として入学して来ました。北中、西中、気高郡は西高。当時の日本海新聞は、東高が最も難関校だと書いています。

それで、3回生は下級生の扱いに慣れていないし、4回生も上級生というのはどんなものかどう接してよいかわからない——しかし、戦後の民主・独立・平等・自尊・自治などの考えに従っていましたから少しずつけあって来て、非常によく来たのです。

5回生は我々が3年生の時の1年生。私個人で云えば、6、7回生は知りませんが、大学を卒業して、東高に教師として帰って来た時には8回生が3年生、9回生は2年生。そして10回生は一緒に東高に入学したということです。

10回生も、もう還暦を迎える年齢となった様ですが、この時の新入生の中には、今の東高の校長の田村先生、校医の岸田先生もおられます。それから昭和38年まで東高におり山脈16回までの卒業生は知ったり知られたりしていると思います。昭和38年から昭和46年まで新設の西工業。また昭和46年に東高に帰って来ました。山脈23回(昭和47年3月卒)が3年生、以来平成6年定年退職。それ以後講師として授業や華道部の顧問として東高に御世話になっております。

東高の歴史の流れとして①開校のころ②昭和31年～37年(何故37年かというと、昭和37、38年ごろよりベビーブームの余波で、高校急増、私は新設の西工業に行

きました)③昭和38年、東高も1年生はそれまでの6クラスが、12クラスになり300人ぐらいだったのが600人以上となり(山脈17回)学校もずいぶん変わってきたようです。

古い資料をさがしてしましたら、井上竹男先生の補習プリントや、私のノートが出て来ました。井上先生は、昭和24年～39年まで、東高におられて、米子工専の教授として行かれた方です。解析Ⅰ、Ⅱ、と数学の分野がありますがテキストがかなりの部分英文で書いてあります。プリントに私も単語を引いて訳をつけた跡も処々にあります。思えば、テストにも英文で書いた問題もあったのでは、と思います。ノートの方もタイトルなどほとんど英語で書いています。英語がよくわからなかった生徒はどうだったのでしょうか。平均点が100点満点で0.25という時がありました。井上先生の授業は、『水の高さより低きに、おもむくがごとく』、順列組合せなどでは中国美人と、西洋美人と、手を握るコタツの座り方、——本当はもっと強烈な表現?!——など、独特の表現と教え方でした。先生は大変タフで、コリ性で、例えば、テニス。毎日、朝早くから、一日中(暇さえあれば)中庭のコートで、練習しておられました。その相手をされていた井村先生は、それで身体をこわした、などと話されたことがあります。そして、魚釣り、特に鮎釣。朝まで釣って学校に漁獲を持って来て見せて、そのまま、授業をされたり、あれはどういう風か今では考えられないのですが、朝から宿直室で、囲碁。

あの当時の先生方は、大らかな生き方をしておられたようです。さらに、井上先生は、尺八の大家で、臨海学校で、諸寄の小学校に宿っているとき、諸寄の琵琶の先生が聴きに来て、丁重にあいさつをしておられたことがありました。

鳥取県の囲碁界の本因坊、囲碁名人など No.1の松本二郎さんは、井上先生に手ほどきを受け、やがて先生より上手になり、先生に囲碁の相手をし、そのかわり今度は先生の尺八を習うと云う交換指導をしていたようです。

化学は藤井睦雄先生に習いました。先生は身体がお丈夫でなく、東大の研究室から郷里鳥取にお帰りになり、東高で化学の指導をされたわけです。当時の化学の教科書は「大日本図書」のものでしたが、その本の中の実験は全部生徒にさせられました。実験数も80～100ぐらいあったのではなかったのでしょうか。生徒各自が、それぞれ実験し、レポートを書いて提出、それを採点して返す——大変な作業だったと思います。藤井先生も、化学の項目などには必ず、英語を付けて指導されました。当時

の東高の先生方は英語がわかってあたりまえということだったのででしょうか。お陰様で大学に行ったとき、英語の術語など、何となくわかったような気がして楽でした。

国語は昭和32年福知山駅で、列車事故でなくなられた藤原先生に習いました。先生は台北大におられたということで、中国語で漢詩など読まれたりしました。試験問題が大変でした。プリントは用紙裏表びつしり書かれ、2枚も3枚もありました。そしてその採点は皆の答案に赤字で丁重に直し、いろいろ感想など書き込まれて返されました。当時先生は、智頭の方から列車通で、大きな鞆にパンパンに答案を入れ、列車でも採点しておられた様です。先生は校歌の作詞もされました。静かな方で、号を『氷華』としておられました。自分の中には炎が烈しく燃えている――。

国語のもう一人の先生、旧姓尾崎先生、結婚されて米山美代子先生、ふくよかな美人でしたので「平安美人」とニックネームを献上し我々が2年生の時に結婚されたので、当時は流行歌で高田浩吉の『土手の柳は風まかせ…』という歌がはやっていたのを変えて『米山オカメはトトまかせ…』などと歌いまくったので、担任の前田寿男先生(マーボー)が職員室から飛んできて、「歌うのを止めえー」と叱られました。しかし、その時は他のクラスが同じ歌を大声で歌って助けてくれるなど、担任は学校中行ったり来たりがありました。

教頭の中村高士先生も国語でした。口ぐせの言葉があつて、今日は何回だった、など数えるものがありました。中村先生は『柏舟』という号でした。ニックネーム『かばさん』でしたので<海行かば、水くかばね>など、カバのところを強調してこれも大声で、教室で歌い上げました。社会は2年3年の担任でもあつた前田寿男先生、世界史、<ゲルマン民族の大移動> <ナポレオンの一生> など立板に水の名調子で語られました。<ナポレオンはしみじとしたところのない男だったけろ> 名調子が出ると、語尾がチョットあやしくなるのですが、我々はすっかり感激しました。

物理の横川先生は、我々の隣のクラスの担任で、横川クラス、前田クラスは旧制中学から来た男子ばかりのクラスでしたから、一緒にクラスみたいなものでした。学校中、我者顔で大暴れ、毎日大騒ぎで、大変楽しくやりました。あれはどう云うわけか、学校でも、街でも、何人か集まって、ぞろぞろ街を歩いたり、だれかの家に行ったり、先生のお宅にも行ったりしました。テストの前は2~3人ぐらい互いの家に行って徹夜で、一夜づけの勉強をよくやりました。

音楽の田中妙子先生(現在は、森山先生、東高校歌の作曲家で、甲子園球場の近くに住んでいられ、東高の校歌が、まだ甲子園で流れないが、いつになったら聞かせてもらえるのといわれます。)のお宅はオオチダニ神社の入口のところにありましたが、何人かでおしかけ、ピアノを弾いていただいて、皆で歌ったりもしました。今思えば、独身の女の先生のお宅に男の子が何人もおしかけ夜遅くまでさわいでいたのです。

3年生の時の正月は、集団で担任の先生や勉強を習っている先生のお宅を襲って上がり込み食ったり飲んだりするもの(?)をねだったりなどもあったかな?



(4列) 宮脇 中尾 山崎 治部田 本家  
(3列) 森本 山崎 川口 谷口 三橋 山本 米山 角  
(2列) 増賀 井上 若松 北脇 藤井 橋本 前田  
(1列) 早田 横川 中村 山下 西村 橋本 鈴木 藤原  
鳥取東高校教職員一同・昭和27年3月撮影

卒業してからは、やはり、先生方のお宅へいろいろ話をしに行ったものです。他の学校ではこのようなことがあつたでしょうか。

物理の横川先生の時間には、皆がいろいろネダって、物理ではない話をしてもらいました。時に酒の飲み方も。当時は酒のないころでしたから、焼酎の飲み方、――番茶で割るとか、サイダーで割るとか、飲んでから鼻をつまんで走るとよく酒がまわるとか――など。

したがって、臨海学校では、先生方の寝られた後で、諸寄の海岸で、ヤカンに焼酎とサイダーを入れて、皆で走り回る実験もやりました。

臨海学校については、あとでまとめて書きたいと思います。

『古代東高史』は、倉恒貞夫先生(山3)が京阪神支部会報に寄稿されたものを、京阪神支部と先生、山崎勝彦さん(山12)のご了解を頂いて、掲載しています。

## ◆◆◆ 母校への最大の応援を ◆◆◆

東雲会会長 石丸 文男  
(山脈24回)



昨年8月の総会で常田亨詳前会長からバトンタッチを受け、東雲会会長に就任いたしました山脈24回(昭和48年卒)の石丸文男でございます。東京東雲会の皆様には日頃から同窓会活動に積極的にご参加をいただき、誠にありがとうございます。また若い人も積極的に活動しておられ、非常に頼もしく思います。東京東雲会の会報を拝読すると、その熱気が伝わって来ます。私は20年以上も前になりますが、東京で3年半ほど単身赴任を経験しました。当時東京周辺に住んでいた東高の同級生数人と定期的に集まり、近況を報告したり、昔話で盛り上がったっていました。東京東雲会の存在を知りませんでした。今思うと非常に残念でなりません。東京東雲会に参加していれば、もっと充実した東京での単身赴任生活が送れたかも知れないなどと思っています。

さて、世の中は2020年の年初から続く新型コロナウイルスの影響により、仕事や社会生活のあり方が大きく変化し、なかなか収束の兆しが見えてきません。コロナ後の世界がどうなっていくのか、様々な予測がなされていますが、実際のところは予測する事すら難しいのではないかと思います。

そういう状況の中、東京東雲会の年次総会も昨年は中止され、今年は7月の開催予定を秋に延期されるとお聞きしています。昨年は本当に残念な思いをされたと拝察いたします。今年も今のところコロナの状況は厳しいものがありますが、何とか開催出来ますようお祈りいたします。林田会長様が会報東京東雲創刊号のご挨拶でおっしゃっておられるように、同窓会活動の充実が母校に対する最大の応援であります。来年の鳥取東高等学校創立百周年を東京でもしっかり盛り上げていただきたいと思います。

末筆となりましたが、東京東雲会の更なるご発展と、同窓生の皆様のご活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。



東高前、天神川沿いの桜。コロナ禍で迎えた春、今年も昨年と変わらず美しい光景が広がりました。(写真:山62 井上雅大)

## ◆◆◆ 輝く若者たち コロナ禍のこの1年 ◆◆◆

東高校長 中島 靖雄



東京東雲会の皆さまにおかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に厚いご支援とご協力をくださりまして、ありがとうございます。

さて、私、鳥取東高に赴任して2年目を迎えましたが、この間、終始コロナ禍の中にあつて、我々教職員も、そして皆さんの後輩たちもまだまだ「悪戦苦闘」の日々が続いています。

昨年度は、予定されていた県高校総体が4月の段階で史上初の中止という事態になり、この大会に賭けてきた高校生の青春の1ページが破り捨てられたかのような思いでした。しかし、高校生の熱い思いが叶い、本県独自の代替大会を開催できる運びとなり、全国大会にはつながらない大会ではありましたが、7月にかけて県内各地で熱戦が繰り広げられました。運動部では、柔道、陸上、テニス、ビームライフル、水泳部の精鋭たちが県優勝を果たし、気を吐いてくれました。文化部でも放送、書道部などが鳥取東高ここにあり！と言わんばかりのパワーを発揮してくれました。

7月下旬からは本県にも第2波が到来し、8月末の東高祭は、開催すら危ぶまれました。しかし、生徒や教職員の発想とアイデアで、会場を2,000人まで収容できる鳥取駅南の産業体育館に移したり、体育祭の種目を身体接触のない種目に置き換えたり、生徒たちは一丸となって最後の後夜祭までやり切りました。

2年生最大の行事、修学旅行はというと、行き先を、急遽近隣(鳥取・島根)に変更しましたが、これもなんとか実施しました。さらに1年生の冬季高原教育(氷ノ山でのスキー実習)は、旅館での密を避けるため2団に分けて実施しました。

まさに、生徒や職員の知恵と工夫でほとんどの学校行事をやり切った1年となりました。

コロナ禍の中ではありますが、みなさんの後輩たちは、おそらく皆さんが思っているよりもずっと高校生活を楽しんでます。前向きな気持ちで、できないことを悔やまず、できることに感謝して工夫し、そしてやり切った！3月の卒業生からもそんな言葉が聞かれ、私自身も頼もしく感じました。

また、「心を燃やせ！」の学年スローガンのもと、卒業した3年生は、最後の最後まで諦めることなく勉学に励んだ結果、業者の合否判定をひっくり返す生徒が続出する結果となってあらわれ、近年にない進路実績を築いてくれました。きっとコロナ禍の令和2年度にみなさんの後輩が作り上げた新しい伝統は、後輩たちにも受け継がれていくものと心強く思っています。今後もどうか、引き続き温かい目で後輩たちの活躍を見守っていただければ幸いです。

## 創立百周年に向けて

東雲会事務局長 滝波 和宏  
(山脈24回)



我が母校、鳥取東高等学校は来る2022年6月23日をもって、創立百周年を迎えます。大正12年(1923年)4月に新入生104名を迎えて、鳥取二中第1回入学式が挙行されて以来、約29,000名の同窓生が母校を巣立っていきました。現在、コロナ禍という厳しい状況の下ですが、多くの同窓生の皆さまと共に、来年度の創立百周年記念事業が成功し、未来に向けて益々母校が発展していくよう取り組んでいきたいと思っております。

さて、鳥東高の同窓会は現在『東雲会』という名称で呼ばれていますが、鳥取東高の前身である「鳥取二中」では同窓会の名称は「柏葉会」でした。新制高校である鳥取東高等学校の設置が決定した頃、同窓会の組織・名称を巡り、二中の「柏葉(はくよう)会」と鳥東高の「山脈(やまなみ)会」との間で、「統合して一つの組織にするか」「名称は何とするか」ということに関して、双方の代表が激論を交わしたと言われております。紆余曲折を経て「双方が統合し、一致団結して母校の発展に寄与する。名称は『東雲会』とする。」という結論に達したと聞いています。現在、二中の卒業生の方々を「柏葉(はくよう)…回」、鳥東高の卒業生を「山脈(やまなみ)…回」と呼ぶのには、その名残が残っているのです。現在も、各地域支部、職域支部、本部同窓会で「柏葉世代の諸先輩」が活躍なさっていることに、心から敬意と感謝を申し上げたいと思っております。

現在、来年度の創立百周年に向けて同窓会としての「募金事業」を計画しています。コロナ禍という現状の下で、「苦しい世情の中で、募金は大丈夫か?」という諸先輩方や同窓の方々からの心配の声や、数々のご助言等を賜りました。同窓会役員会で、そして学校側と慎重な協議を重ねた結果、事務局としましては「苦しい時こそ一致団結するのが鳥東高同窓会!」という精神をもって、創立百周年募金事業を実施するという結論に達しました。過去の周年事業で、同窓会館、トレーニングジム等のいわゆる「箱物(ハード面)」はほぼ完備しています。今回は学校側の要望により、「ソフト面の充実」ということで、現役の生徒の様々な活動を支援する「教育基金の創設(2,000万円)」、「トレーニングジムのリニューアル費用(1,000万円)」、「記念式典・記念誌等の経費(1,000万円)」、合計金額4,000万円を目標額として、募金に取り組んでいきたいと考えています。同窓生の皆さま方のご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

最後に私事で恐縮ですが、同窓会本部事務局長には年に一度の大切な業務があります。先日、校内の同僚2名(事務職員1名、同窓生(山脈28回)の教員)と共に、学校創設功労者の徳田平市翁の墓所の清掃に行ってきました。毎年6月14日の徳田翁のご命日には、本部事務局長が墓参する習わしになっています。来年度は徳田翁の墓前で「創立百周年記念事業が成功しました!」と報告できるよう願いつつ、ペンを置きたいと思っております。

## 最近の鳥取

井上 雅大(山脈62回)



山脈62回生、鳥取市在住の井上雅大と申します。地元新聞社の東京支社で3年近く勤務し、今年2月に鳥取に戻りました。東京東雲会の総会には、2018年と19年に出席。林田会長をはじめ、多くの方々に大変お世話になりました。新型コロナウイルスの感染収束のメドが立ちませんが、ワクチン接種が進み、これまでのように総会が盛大に開かれることを願ってやみません。

さて、「最近の鳥取」というお題をいただきました。コロナの話で恐縮ですが、鳥取は島根に次いで感染者が全国で2番目に少なく、感染状況がひっ迫している東京など都市部に比べると、どこことなく安心感が漂っています。早期検査や入院、感染者の把握で感染を抑え込む平井知事肝いりの「鳥取方式」は、全国でも話題に。一方で、最近では感染拡大のペースが上がっており、5月9日には累計の感染者数が400人に達しました。変異株も広がっているため、鳥取といえども油断はできない状況です。昨年以來、鳥取でも大型イベントなどが相次いで中止に追い込まれました。昨年は鳥取の夏の風物詩、鳥取しゃんしゃん祭りや米子のがいな祭りが取りやめに。今年のしゃんしゃん祭りは、鳥取市布勢の布勢総合運動公園に会場を変えて無観客で行うそうです。

最後に、コロナ禍で迎えた鳥取の若葉薫る初夏の様子を写真でご紹介します。物理的に人と人の距離が離れてしまった今こそ、互いを思いやり、東京と鳥取を「密」につなぐ貴会のようなネットワークは貴重な存在だと思います。貴会の益々のご発展を祈念いたします。



緑が深まり、初夏の陽気に包まれる久松山周辺。右奥に見えるのは、今年3月に復元された鳥取城の「中ノ御門表門」です。ちなみに、近くには昨年、本格的な日本茶カフェがオープン。東高の同級生で、私の親友が経営しています。感染状況が落ち着き、鳥取に来られた際にはぜひお立ち寄りください!

# 首都圏の若者が集い、 ふるさとの魅力を発信する 「若い鳥取県応援団」

辻 堅太郎 (山脈54回)



私は、2012年から東京都庁に勤務し、広報や教育などの分野を担当しています。上京し、都庁に勤務し始めた当時、東京で同世代の鳥取出身者とのつながりを持ち、鳥取の魅力が首都圏の方々にもっと知ってもらいたいとの思いから、「若い鳥取県応援団」(通称：若鳥)の団長として活動を開始しました。

若鳥では、毎年、鳥取県のアンテナショップや都内のギャラリー、レストランなどを会場として、鳥取の民藝・食・アート等をテーマとしたPRイベントを開催し、多い時には約500人が来場しています。また、首都圏で販路等を拡大しようとする鳥取出身の経営者を応援する取り組みや鳥取ゆかりのお店での交流会も開催しています。昨年からは、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインでの活動に切り替えています。鳥取にUターンされた梅津酒造の蔵元を応援するイベントなども開催しています。

こうしたイベントへの参加等をきっかけにして、継続的に鳥取のモノを購入する方や実際に鳥取に旅行される方も出てきており、20~30代の方々を中心に鳥取ファンが拡大してきていると感じます。私自身、鳥取に住んでいたときには知らなかった地域の新たな魅力を再発見したり、鳥取のモノが東京の若者に好意的に受け入れられることを通じて、地元への自信にも大きくつながりました。また、イベントの際には鳥取を愛するバイヤーやソムリエなど、様々な専門家の皆さんにも趣旨に共感いただき、多大なご協力をいただいています。

そして、活動を継続していく中で、団体の存在が広く知られるようになり、東京でPRイベントを開催しようとする鳥取の自治体やまちづくり団体等からお声掛けいただき、東京と一緒に活動したりもしています。

若鳥は鳥取出身者に留まらず、他県出身の鳥取ファンの方も含め、現在、約120名が参加していますが、今後も東京と鳥取の懸け橋として、楽しみながら、活動を前進させていきます。活動にご関心のある方は事務局(wakaitottori@gmail.com)までお問い合わせください。



中目黒で開催した因州和紙の企画展。鳥取の和紙をファッションやアートの切り口から発信しました。

## おしらせ

### ◆東京東雲会総会 開催日程について

例年7月の第1土曜日に開催しておりました東京東雲会総会を、新型コロナウイルスの感染状況を勘案し、以下の通り秋の開催へ延期することとなりました。

### 令和3年 東京東雲会総会

日時：2022年10月16日(土)12:00 開会  
を候補日として予定

場所：法曹会館

ただし、開催については新型コロナウイルスの感染状況をみて判断し、8月下旬~9月上旬に改めて案内する

ワクチン接種が進み無事開催できますことを祈念いたします。

### ◆母校創立100周年について

2022年6月23日、鳥取東高は創立100周年を迎えます。東高伝統行事『東高祭』に合わせ8月末~9月上旬に県民文化会館にて記念式典・行事を実施することが決まりました。詳細は東京東雲会ホームページ他でお知らせいたします。

### ◆100周年募金のお願い

目標額4,000万円を目指して募金が始まります。本部会報『しのめ』に同封して募金趣意書が送られてまいります。東京東雲会としても協力していくこととしました。皆様募金にご協力のほどお願いいたします。

### ◆創立功労者「徳田平一翁を鳥取名誉市民に」申請中

早ければ10月には決定の運びとなることとです。皆様応援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 鳥取東高クイズ【答え】

A1：2.6月23日

4月5日は鳥取二中開校記念日、9月12日は鳥取県民の日

A2：鳥取工業高校と鳥取実業高校

A3：○2012年第5回大会優勝

A4：○1936年プール竣工 A5：1.陸上「くがみ」と読む

A6：1.すんず(国府町) 2.くずも(米子市)

A7：○池としては日本一。湖としては琵琶湖が日本一

## 【編集後記】

会報「東京東雲」4号は定例7月開催の東京東雲会総会の案内と同封してをお届けする予定でしたが、残念ながら総会開催の案内は秋に延期の予定となってしまいました。何とかコロナ禍が一段落し、秋に延期開催できることを願っています。今回4号発刊にあたり、寄稿いただいた多くの方々に深く感謝いたします。

(山脈22回 細谷 和夫)

[東京東雲会事務局]

〒182-0016

東京都調布市佐須町4-27-12 メゾン佐須202 細井様方

東京東雲会

電話：090-3087-1394(幹事長 奥田)

Mail：tokyo.shinonomekai@gmail.com

[公式ホームページ]

https://tokyo-shinonomekai.jimdo.com/